



株式会社キャタラー

事業継続とセキュリティを重視したIT基盤構築を目指し マルチクラウドに閉域接続するネットワークを導入

導入サービス：Arcstar Universal One Multi-Cloud Connect /
Network Support Services



株式会社キャタラー
情報システム部
吉田 理朗氏

「現在はMicrosoft Azureを利用していますが、それ以外のクラウドサービスを利用するのは必須です。通常、クラウドサービスを利用する際には、クラウドに接続するための回線やルーターなどの機器、クラウドの接続拠点となっているデータセンターのラック契約が必要です。しかし、Arcstar Universal Oneであればネットワーク網から直結しているので、それらの設備は不要でクラウドと安全に接続できることは大きなメリットがあると考えています」



企業情報

社名 株式会社キャタラー

事業概要 1967年設立。以来50年間、触媒と活性炭により、空気や水を浄化する新しい環境技術を開発し、世界のお客様に提供。特にハイブリッドカー用触媒、ガソリン・ディーゼル車用触媒などの自動車排出ガス浄化用触媒では、世界トップレベルの技術を誇る。

URL <https://www.cataler.co.jp/>

- 課題**
 - ・事業のさらなる成長やものづくりの革新を支えるIT基盤の構築
 - ・事業継続とセキュリティの強化が求められていた
- 対策**
 - ・複数のクラウドを利用するマルチクラウド化で事業継続性を確保
 - ・閉域網で「Microsoft Azure」へ接続することでセキュリティを強化
- 効果**
 - ・これからのビジネスを支える新たなグローバルIT基盤を構築
 - ・IoTなどシビアな用途でも不満のない通信インフラを実現

課題 グローバルでのビジネス拡大を支える 新たなIT基盤の構築が急務に

ガソリンおよびディーゼル車、さらにはハイブリッドカー用の排出ガス浄化用触媒において国内トップシェアを誇り、グローバルでも世界トップレベルの技術を誇っているのが株式会社キャタラー（以下、キャタラー）だ。同社は品質管理においても定評があり、2015年には総合品質管理の進歩に貢献した民間の団体および個人に授与される「デミング賞」を、そして2018年には「デミング賞大賞」を受賞している。

そのキャタラーにおいて、現在進められているのが「グローバルビジョン2025」と呼ばれる取り組みだ。これは国内（静岡県）に1カ所、海外7カ国に生産拠点を構えている同社が事業のさらなる成長やものづくりの革新などにより、持続的成長を目指すものである。この戦略をITの側面から下支えし、グローバル全拠点でのシステム統一化を目指すプロジェクトとして「i-Cataler2020」が立ち上げられた。

キャタラー 情報システム部の吉田理朗氏は、プロジェクトについて次のように話す。

「i-Cataler2020は、スクラッチで開発しているグローバル生産管理システムである『G-CPS』、IoTの技術を活用して各工場の製造状態のリアルタイム管理をする『i-Factory』などグローバル全拠点で共用する複数のシステムから成り立っています。これらのシステムを運用するためのインフラとして、新たにグローバルIT基盤を構築する必要がありました」

このグローバルIT基盤の構築において、強く意識されたのがBCM（Business Continuity Management：事業継続マネジメント）である。2011年に発生した東日本大震災により、日本の多くの製造業が事業継続リスクにさらされた。このときの経験から、同社は事業継続

マネジメント活動の重要性を認識しており、グローバルIT基盤で利用するネットワークサービスの選定においても、事業継続に資するものかどうか重要なポイントとなった。

対策

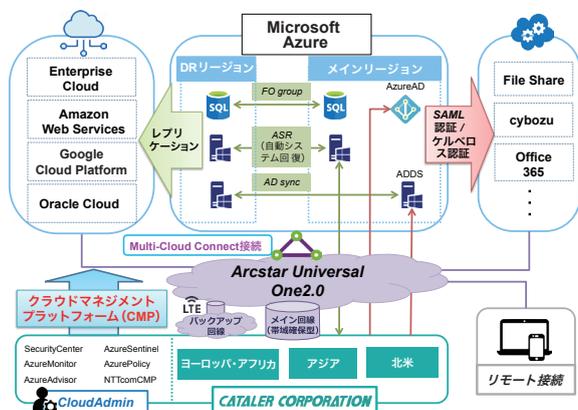
事業継続とセキュリティの観点からネットワークサービスを選定

i-Cataler2020では、システムを運用するためのクラウド環境として「Microsoft Azure」を利用している。しかし、このようなパブリッククラウドであっても、BCMの観点からサービス停止のリスクを無視することはできない。そこでカタラーでは、グローバルIT基盤におけるネットワークサービスの選定において、ネットワークに加えて自前のクラウドサービスも展開していることを要件とした。その意図について、吉田氏は「Microsoft Azureと通信事業者のクラウドサービスを併用するマルチクラウド環境をとることで、IT-BCMを実現することが狙いでした」と語る。

IT基盤の構築においては、事業継続マネジメントに加え、セキュリティも重要な要素となっていた。カタラーの取引先企業が求めるセキュリティレベルは、国内・国外を問わず年々上昇していて、IT環境について指摘を受けることもあるという。吉田氏は「現時点では我々が利用するパブリッククラウド環境に特化した指摘はありませんが、指摘を受けてから対応するのではなく、あらかじめ自分たちで先回りして考え、対策強化に取り組んでいます」と話す。このような背景から、「基幹システムなどの多くの重要システムをクラウド上で運用する条件として、クラウドサービスに閉域網接続できるネットワークサービスは必須であると考えていました」と振り返る。

このような要件を満たすネットワークとして、最終的に選ばれたのがNTTコミュニケーションズ株式会社(以下、NTT Com)の「Arcstar Universal One」である。吉田氏は「グローバルビジネスを加速させる当社にとって、Arcstar Universal OneはオプションサービスのMulti-Cloud ConnectによってMicrosoft Azureや『Amazon Web Services』、あるいは『Google Cloud Platform』『Oracle Cloud』など、多くのクラウドサービスに閉域で接続できる点がグローバルIT基盤に最適なネットワークサービスであると判断しました」と選定

図 カタラー社グローバルIT基盤コンセプト



した理由を説明する。さらにNTT Comでは独自のクラウドサービスである「Enterprise Cloud」を提供しており、クラウドサービスに強みのある通信事業者であるという要件も満たしていた。

効果

高品質なネットワークを手に入れグローバルIT基盤の強化を加速

Arcstar Universal Oneの導入に際して、吉田氏はNTT Comの手厚いサポートを受けることができたと明かす。例として挙げられたのが、グローバルでのプロジェクトマネジメント力とMicrosoft Azure接続を可能にするネットワーク設計力だ。

「NTT Comグループ全体で、海外拠点のネットワーク開通をフォローしていただきました。このように静岡支店の営業担当を窓口グローバル全域でユーザーをフォローするプロジェクトを実行できるのは、NTT Comならではの感じました」と吉田氏は当時を振り返る。

「Microsoft Azureについては、Express Routeを接続する際、キャリア側で設定すべきこととAzure側で設定すべきことがあり複雑です。しかしNTT ComのNetwork Support Services (NSS) を利用することで、Azure側の設定についても手順書を作成してくれたり、ネットワーク構成も作成してくれるなど、Azureに知見のあるプロジェクトマネージャーのきめ細かなサポートにより、設計通りに開通できました。NTT Comの手厚いサポートが受けられたことで、当社側はリソースや人員を追加することなく、Arcstar Universal Oneの導入プロジェクトを完了することができました」

そしてArcstar Universal Oneは、Microsoft Azure上で提供されている「Azure Active Directory」および「Azure AD Connect」を用いたActive Directory環境の統合、さらにIoT機器からのデータ収集にも使われている。吉田氏はこれらの用途での利用においても、現在までにトラブルが生じたことはないと言及し、品質の高さを評価し、「Arcstar Universal Oneは信頼できるネットワークサービスです」と述べる。

カタラーでは今後、Arcstar Universal Oneの海外拠点拡大を行うとともに、NTT Comのクラウドサービスである「Enterprise Cloud」を利用し、BCMのさらなる強化を図る予定である。こうした姿勢は、同社の製品を採用する全世界のビジネスパートナーに大きな安心感を与えることになるだろう。



お問い合わせ

NTTコミュニケーションズ株式会社

ホームページ www.ntt.com/business

●記載内容は2019年9月現在のものです。
●表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。
●記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。